

幼児の芸術活動とはどういうものか

——音楽を中心として——



細 矢 静 子

幼児の芸術活動とは、音楽や絵画製作などにおける、主として創造的な活動をさしている。

一般に幼児の音楽活動は教えられたことを再現するということが多い。

幼児期は聴覚がもっとも発達するといわれているので、この時期にしっかりと音楽的感覚を身につけさせようとの意図から、これも当然なことであるが、しかしまた、この時期こそ、音楽を通して創造的な活動ができ、豊かな創造力をもった人間となるように、自発的な創造活動も重視されなければならない。

私はこのような考えで、毎日の保育にあたっているが、幼児の実際の生活の中でどのような創造的な音楽活動がみられるかを述べてみよう。

遊びの中で

入園間もない三歳児は実にのびのびとしていて、したい放題のことをしている。この自由奔放な心を損わないように教育したい

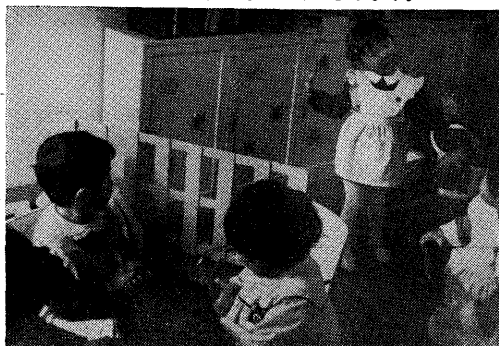
ものと思い、幼児の自発的な考えを尊重し、それをできるだけ保育にとりいれた。

例えば、部屋の中では五、六人のグループで『誕生日ごっこ』がはじまっている。粘土でバースデーケーキをつくり、「今日はMちゃんのお誕生日よ。お祝いに歌をうたいましょう」といって、「ハッピーバースデーツュー……」とうたう子、「ちようちよう」をうたう子、「CMソング」や「黒田節」（もちろんことばも節もうろおぼえ）までとびだし、歌のうろおぼえのところを一緒にうたってやると子どもたちは大喜びで、そのうち、「わたしは白鳥の湖をおどります」といってバレリーナの身振りでおどりだす子どももいる。この時、幼児の動きに合ったレコードを流すと、子どもたちは三人、四人とよってきていっしょにおどります。教師も加わりパートナーの役をつとめると子どもたちのようこびはますます高まり、庭で遊んでいた子どもも集まってきて、たのしいリズム活動が展開された。

誕生日ごっこ きょうは、まみちゃんの誕生日



パースデーケーキをつくりましょう。



おいわいにわたしは、白鳥の湖、をおどります。

教師はピアノをひいて教えるばかりでなく、子どもたちの遊びをよくみて、幼児の表現活動を助長していくようにすれば、三歳児でもこんなにたのしくいろいろな活動ができるのである。この「誕生日ごっこ」は幼児が気にいって、三、四日続き、その後も度々くりかえされ、その度に、「レコードをかけてちょうだい」といつてきた。

歌をつくる

幼児は心が満たされている時は、しらずしらずのうちに歌ともことばともつかないものを口ずさんでいる。これは、二、三歳頃

に多く、この時期から創造性を育てるように導びいていけば幼児はよろこんで自分でうたをつくりだす。創造的な活動は、何より雰囲気大切である。どんなことをしても平気という、安定感を与え、大人が批判したりしなければ、子どもはいい気持ちになつて大胆に歌をつくりだす。

歌をつくるといっても、幼児の場合は即興的につくるのであるからこうした活動を教師はみのがさずとらえて、のばしていくことが大切である。

当園では、三歳児でも即興的に歌をつくるということが盛んで、

しかもその歌の内容は創造性にあふれている。(「幼児の教育」六十四巻十一号、六十五巻十二号参照)

ここにその一部を紹介しよう。(次頁楽譜①②③参照)

四歳児では更にすすんで幼稚園の生活がそのまま歌となるなど、ますます表現活動が盛んになった。

④友だちが家からもってきたバラの花をみて、すぐさま歌をつくりだす子ども、また、⑤雪の日の経験、⑥豆まきなど、その日、その日の生活がつきからつきへと歌になって、いくつもいくつもつくられた。

⑦雪は天の神さまの一年ぶりのウンチだよ。スマートなウンチだよ。

節はあまりついていないがこのような独創的なものもあった。

幼児は自分たちでつくった歌は、すぐにおぼえてう

たいだし、よろこんで幾度でもくりかえしてうたう。そのよろこびよりは大人の想像以上のものである。

また、即製の曲を教えると、その歌の一番、二番にひきつづき、三番、四番……と自分たちでつくりだすというようなことも多

①

お婆けはほんとに こわいのよ どうしてもどうしても こわいのよ

お婆けはぶるんぶるんで こわいのよ みんながこんげんを たべちゃうぞ —

②

へびー へびー へびのしっぽ へびー へびー へびのしっぽで す

③

あたまのなかには きかいがはいっている なんでもなんでも かんがえる

④

つくえのうえに ばらがさいている それはだれが

もってきたばらでは だれがもってきたの きれいなきれいな ばーら

⑤

つらら つらら つららはやねに さがっているのね

ふとい つらら ほそいつら ら ゆきは まっしろで

きれいだね ゆきも ゆきも まっしろね

⑥

まめまきまめまき おもしろい まめを パラパラ おには

どこからくる の か ふくはうち おにはそと おーには

にげていく ばんざい ばんざい はやく にげてゆけ

くみられた。例えば、遠足で、いもほりにいくので、
1 「でぶいもちゃん、つちのなかでなにしてたの。」
「もぐらと、おすもうなんかしってたのかい。」
2 「ちびいもちゃん、つちのなかでなにしてたの。」

「みみずと、けんかなんかしてたのかい。」

という歌を教えると遠足のあとで実際にみたおいの形が、三

番、四番、……となってつくられた。

3 「中^{ちゅう}いもちゃん、つちのなかでなにしてたの。

「ありんこと、おはなしなんかしてたのかい。」

4 「細いもちゃん、つちのなかでなにしてたの。

「ことりの口笛きいてねてるのかい。」

5 「くっつきいもちゃん、いつもくっついてなにしてたの。

「まいにち、ないしょばなししてたのかい。」

6 「ぐにやいもちゃん、いつもぐにやぐにやなにしてたの。

「せなかをおされて泣いていたのかい。」

歌をつくるということを作詩、作曲とむずかしく考えないで、

とにかく幼児につくらせる機会を考えることが望ましい。

音楽活動を総合的に発展させて、『劇あそび』をすることは子どもにとってなによりたのしいことであるが、ましてこれが、自分たちでつくった劇（話の筋、セリフ、歌、ゆーぎ、道具）となると子どもたちにとっては、これは最高のよろこびであり「もつとしよう」といって食事も忘れるほどであった。（劇の内容は前述『幼児の教育』に発表したものでここでは省略する）

こうした活動は幼児にとって、生涯忘れることのできない尊い経験で、幼児の創造性をのばすと同時に、豊かな人間形成の苗床をつくるものである。

楽器

楽器は、器楽合奏としての発表会のための練習ばかりでなく、

普段の生活の中で、楽器にふれる機会を多くし、また、「汚れた手で使わない、乱暴に扱わない、使ったあとには片付ける」と約束して、ピアノ、オルガンを含めて、子どもたちに自由に使用できるようにしていくと、子どもたちは毎日の遊びの中でたのしく楽器にふれ、自分たちで、いろいろな活動をはじめた。

三歳児のはじめは、楽器は幼児にとって遊具であったが、ハンドカスタやタンブリンをメチャメチャにたたいているうちは扱い方をおぼえ、上級生の合奏をきいたあと、すぐに「がくたい」をしたといってきた。そこで最初は自由にたたかせ教師の合図（ピアノや太鼓など）でやめさせるようにした。また、曲にあわせてするとき、短いはやしことば、同じことばの反復、同じリズムの反復などがあるような曲を与えていくと（例えば「おはながわらった」の曲の……わらった……の部分だけをカスタでうつなど）、幼児はよろこんで満足げに、幾度も繰り返して、自分たちでグループをつくって、たのしんでいた。四歳、五歳ではこうした活動は、ますます活発になり、友だちの指揮に合わせて合奏したり、ピアノに合わせておどるなど、たのしい表現活動がみられた。

殊に、ピアノは、幼稚園でも自由にひけるということが、子どもたちにとっては家庭でお稽古のための練習でひくのとちがったたのしさがあるようだ。幼稚園でならった歌をさっそくさぐりびきしたり、友だちのひくのをきいたり、毎日毎日、たのしんで

自由遊びの中ではじめられたもの。中央の子は指揮をして→

↓でたためにひいている三歳児



4歳児の楽器あそび

いた。

鑑賞

朝の幼児向けのラジオ番組を毎日流しているが、集まってきて、きいている子どもは大体同じグループである。こうしたことから、それぞれの幼児の音楽に対する興味を知り、好きな子どもにはレコードを自由にかけさせたり、もっと音楽にふれる機会を多く与え、また、普段あまり関心を示さない子どもでも、自分の知っている歌や曲には興味を

友だちのピアノに合わせておどっている五歳児



示してきいていることがあるから、幼児の知っている童謡などをレコードでかけせたりして興味をおこさせるようにしていった。また、遊びのあとの休息、ひるね、食事の時間などに、らかな気持ちでできるようなしていくと、だんだんに音楽をきくということをしたのしむようになり、五歳児では、曲をきいて、

その感じをつかむこともできるようになった。

次頁の写真は音楽をきいてかいた絵である。

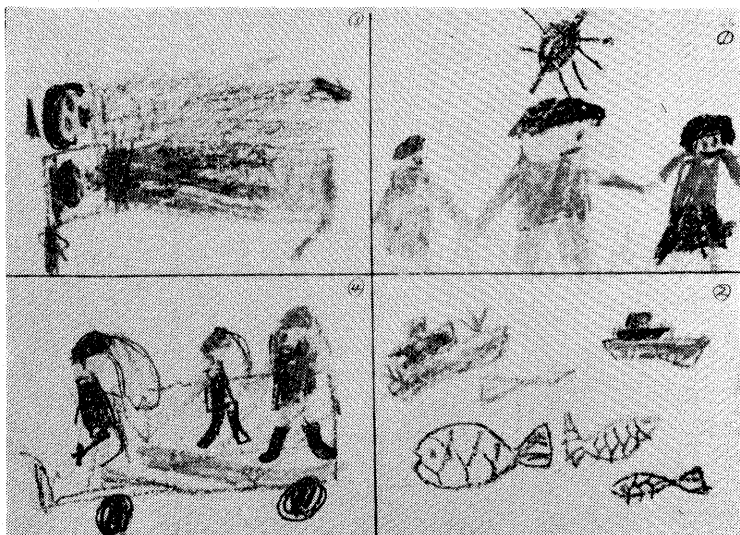
それぞれ、子どもなりに曲の感じをよくとらえている。

幼児の芸術活動は特に環境によって支配されやすいものである。

当園では幼児の自由遊びを中心とした保育をし、絵画製作なども、幼児がやりたい時に自由につくらせるなど幼児の自発的な活動を重んじ、なお歌を教えたりする時も幼児のその時の遊びにあった歌を選んで教えるようにしている。

—A夫の作（男児）—

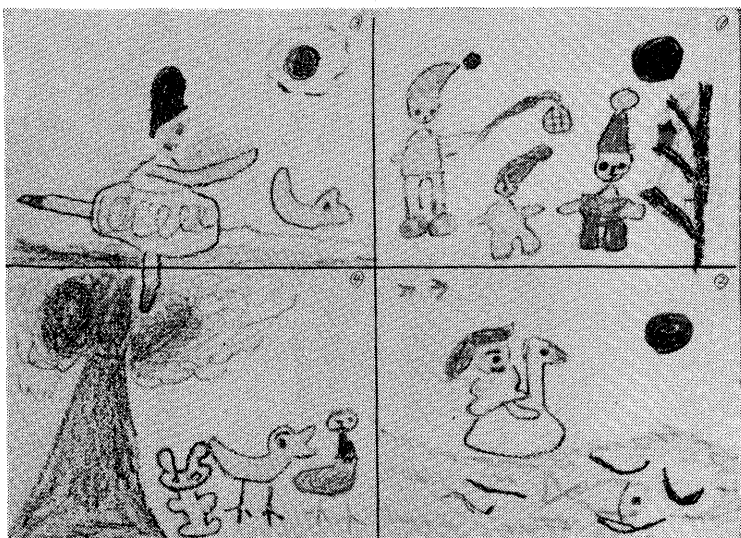
③トロイメライ：シューマン作 妹とひるね。 ①口笛吹きと犬：ブリョール作



④熊ん蜂の飛行：リムスキーコルサコフ作 ②白鳥の湖(情景)：チャイコフスキー作
消防車出動

—B子の作（女児）—

③トロイメライ ①口笛吹きと犬 こびとがおどっている



④熊ん蜂の飛行 火山が噴火するので動物たちが逃げるところ ②白鳥の湖

また、幼児ひとりひとりの性格をよく知り、各人の発達にに応じて自信をもたせるように励まし、適当な刺激と機会を与えるなど環境をととのえ、その中で自由にのびのびと幼児のもっている創

造性をのばすようにつとめている。しかし、まだまだ至らない点があるので、今後ますます創造的活動を多くするように努力しようと思っている。

（日本女子大学附属豊明幼稚園）